

2023 年度独立型社会福祉士事務所委員会研修報告

『自身のソーシャルワーク実践を高める為に
「つなぐ・ささえる・まもる」の視点を再確認しよう』

9月18日 すこやかプラザ 参加人数 39名

アンケート結果

- 1、年齢 50代、40代が54%(21人)、39歳以下11%(4人)、60代以上34%(14人)参加
- 2、独立の状況
独立していない20%、独立していないが独立に興味がある43%独立している37%
- 3、実践発表について
満足66%、やや満足29%
独立した方の多様性を理解できた。
具体的な実践事例だったので分かりやすかった
中身の濃い発表だった
とても勉強になった
自分の方向性を再確認出来た 等
- 4、グループ討議について
満足57%、やや満足31%、普通11%
いろいろな意見が聞けた
各自が積極的に討議に参加し、それぞれの実践からの発表に多くの学びがあった
社会福祉士としての立ち位置を再確認できた
課題が広がりすぎたのではないかな 等
- 5、あなたにとっての「つなぐ・ささえる・まもる」とは
社会福祉士として支援者としてクライアントを支援すること、つなげることが責務
権利擁護
倫理的なジレンマの中でまもることを考え続けて実践する
まもると言うことは権利侵害と表裏一体であることを意識すること
つないだり繋がれたり、ささえたり支えられたり、まもったりまもられたり双方向の関係
クライアントの権利擁護のために必須であり自分自身の権利擁護のための手段でもある
権利を守るだけでなく尊厳を守っていきたい
自分自身が繋がろうとしなければつながらず、支え合う輪に入ろうとしなければささえあうことはできず、自分も含めて守り合う関係を作らなければ守り合うことはできないと思った
自分自身が働き活動内容を発信すること
地域福祉とつないで本人を支えて本人の生活をまもる 等
- 6、運営の仕方について
概ね適切との回答が多く寄せられた
- 7、実践発表者へのメッセージ
自分もそんな実践ができるようになりたい
貴重な体験談を聞くことができた
発表者のような社会福祉士になれるように自己研鑽に励んでいきたい
実践者の社会的課題に対する強い思いがあり、思いがあるからこそ結果が後からついてくると
教えられた
社会福祉士としての理念を再確認することができた 等
- 8、興味や研修の希望
社会福祉士の多様な働き方
成年後見について

任意後見人、市民後見人、法人後見について
開業と経営について
収入と福祉・ボランティア精神とのバランス
社会福祉士同士の連携
独立型社会福祉士の方々の日々の実践
地域共生社会の困難さを乗り越えるヒント 等

9、意見 感想

良い刺激になった1日だった
対面での研修が有意義だったが参加のしやすさからオンライン研修も希望する
生涯研修の意義を実感した
多くの方とつながることができた研修だった
改めて原点を確認できた
自分の実践を振り返ることができた
現在の仕事でもまだやれることがあると気持ちを固めることができた 等

研修の様子

